

植物防疫基礎講座

日本産テントウムシ類の見分け方

— 成 虫 編 —

福井大学教育学部生物学教室 ^さ佐 ^き々 ^し治 ^{ひろ}寛 ^{ゆき}之

テントウムシ類は全世界で約 4,200 種知られていて、そのうち 153 種が日本に分布する。ジャガイモの著名な害虫であるニジュウヤホシテントウなど一部は食葉性であるが、残りの大部分はアブラムシ類、カイガラムシ類、ハダニ類の捕食虫である。もちろん、中には出現個体数がきわめて少なく、実用上無視してよいような種もあろうが、程度の差こそあれ、すべてのテントウムシ類が農林作物と密接なかかわりをもっているといえよう。イセリヤカイガラムシに対するベダリアテントウの輝かしい功績を初めとして、生物的防除上重要な種がいくつも知られていることは改めて申し上げるまでもない。そうした応用昆虫学上の利害を調べる際に、他の昆虫と同様に、正しい種の同定が不可欠な前提になるが、実際には決して容易なことではない。ことに果樹園などで出現個体数の多い小形種には同定の困難なものが少なくなく、一見よく似たものでもその生態的特性がかなり異なっている場合もある。

最近、筆者による日本産テントウムシ科の分類総説 (Fauna Japonica: Coccinellidae, 340 pp., 16 col. pls., 1971) が啓学出版 (東京都千代田区猿楽町 2-3-1 (萩原ビル)) から発行され、これは一般に市販されているので容易に入手できるが、手引書としては必ずしも満足されるものではない。その理由は、系統的分類体系に基づいて分類しようとすれば、相当こまかな特徴を調べなければならず、そのためにはかなりの熟練を要するからである。そこで、編集者のすすめもあって、分類体系にはとらわれず、なるべく見かけ上の目立った特徴による、実用を主眼とした便宜的な分類手引を執筆することとした。しかし、そのために中には例外的な色彩変異形を無視しなければならないものも生じ、また、外観上きわめてよく似た種の区別には相当こまかな特徴を見ていただかなければならないものもある。したがって、さらに厳密を期す場合には上記総説を参照していただきたい。本編には、きわめて特殊な少数を除いて、日本から記録のあるほとんどの種を含めた。そのため、ややはん雑になったが、相当まれなものでも所によっては豊産し十分実用性を持つ可能性があるからである。その代わり、一般にまれなものは必要に応じてその旨を付記した。

この検索表を利用していただくに先立って、テントウムシ類の同定によく用いられる形質や凡例などについて簡単に記して参考にごしたい。

(1) 色彩・斑紋：同一種内でいちじるしく変化に富むものもあるが、多くは安定した種特有のあざやかな斑紋をもっているため、種の同定には大変良い手がかりとなる。しかし、これだけに頼ることは厳密な意味では危険である。上翅に多くの点状の斑紋をもつ場合、前方のほうから 1—1½—3 (第 1 図) のように表現する。½ は合線にまたがる斑紋を意味する。

(2) 背面の被毛：被毛の有無は族くらいのレベルでほぼ安定している。ルーペで見ればはっきりするが、なれると光沢の具合で肉眼で判別できる。上翅における被毛の配列 (毛波) はとくに小形のものでは重要な特徴となる。また、その密度も有用である。

(3) 頭楯の形状：頭楯の側方が複眼の下に張出す群があり、これはぜひ確認してほしい (第 2 図参照)。

(4) 前胸腹板の形状：中央部が側方よりいちじるしく盛上ったものや、そこに 1 対の縦隆線のあるもの、さらにその形状は、多少の変異があるが重要 (第 3 図参照)。

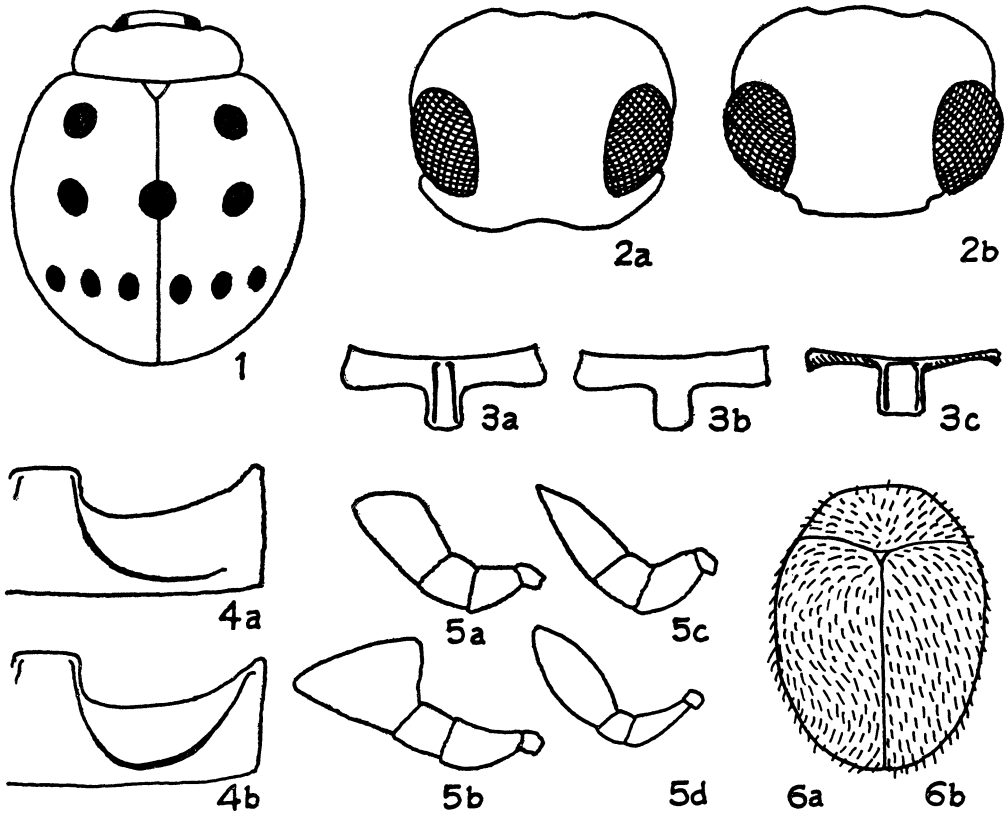
(5) 腿節線：腹部第 1 節の後基節後方に孤状の線があり、これが節の側前縁に達しているものを「完全」という (第 4 図参照)。また、腿節線に囲まれた部分の点刻も重要。

(6) 体形：体長と体幅の比、背面の隆起具合などはかなり安定しているため、こまかな部分をみなくても見当をつけるのに役立つ。

(7) その他：触角の長さや節数、小あごひげ末端節の形 (第 5 図)、脛節の形、跗節の数、各部分表面の点刻の疎密、などはしばしば重要な特徴となるが、小形種についてそれらを正確に見るのは容易ではない。

(8) 交尾器：とくに♂の交尾器は種の決定にきわめて有力な手がかりとなるが、なれぬ人にとっては面倒なので、本編ではいっさい触れなかった。

(9) 体長：補助的なものにすぎないが、筆者の調べた標本などから、各種の体長を付記しておいた。しかし、背面から見える特徴を主体とするかぎり、かなり有効なもので、とんでもない誤りをさけることができるで



1: 上翅斑紋の配列式 1-1 $\frac{1}{2}$ -3 を示す。2a: 眼下に強く張り出した頭楯, 2b: 通常の頭楯。
 3: 前胸腹板, a: T字形で縦隆線あり, b: T字形で縦隆線なし, c: 四角形に露出する。
 4a: 不完全な腿節線, 4b: 完全な腿節線。5: 小あごひげ末端節の形状, a: ほぼ円筒形,
 b: 斧形, c: 円錐形, d: 紡錘形。6a (左半): S字形の上翅被毛配列, 6b (右半): ほぼ
 直線状の被毛配列。

あろう。

(10) 日本では琉球だけに産するものなど, 分布が種の同定の目やすになる場合はそれを付記した。

(11) 背面観で同定可能なものも少なくないので, 「原色昆虫大図鑑 (甲虫編)」に図示されているものは [] 内にその番号を示したので参考にしてほしい。

(12) 和名は本来かなで全記すべきであるが, 誌面節約のため一部数字を用いた。例: オオ 28 ホシテントウ。

検 索 表

- 1. 背面に被毛がなく, 光沢が強い。(細毛がきわめてまばらに生えることがある)..... 2
- 1'. 背面は密な被毛があり, 光沢は弱いか, 無光沢。..... 4
- 2. 頭楯は眼下にはり出す。体長3.0~7.5 mm..... **A群**
- 2'. 頭楯は眼下にはり出さない。..... 3
- 3. 通常体長 3.5 mm 以上で, 小さくても 3.0 mm。小

- あごひげは斧形。..... **B群**
- 3'. 体長 3.5 mm 以下で, 小あごひげは円筒形または円錐形。..... **C群**
- 4. 体長 5 mm 以上 (最小で 4.5 mm)。背面は常に強くふくらむ。褐色地に黒斑がある。..... **D群**
- 4'. 体長 5 mm 以下 (最大で 6.0 mm)。体長が 4 mm 以上の時は, 体形はやや扁平な小判形で, 地色は褐色でない。..... **E群**

A群の検索表

(背面に被毛がなく, 頭楯は側方にはり出す)

- 1. 背面は黄色で, 頭部の一部だけが黒い。体長 3.5 mm。(極稀).....イセテントウ
Arawana isensis H. KAMIYA
- 1'. 背面は黒色部がある。..... 2
- 2. 背面は黒色で無紋。体長3.9~4.1 mm。(九州, 稀).....ミカドテントウ *Chilocorus mikado* LEWIS
- 2'. 背面は黒色地に赤色紋がある。..... 3

3. 大形。上翅は黒色地に縦長の大型赤紋があるか、赤地に黒色の周縁部がある。体長5.8~7.2 mm。〔105-9〕
アカホシテントウ *Chilocorus rubidus* HOPE
- 3'. 体長5 mm 以下。上翅は黒色地に円形または横長の赤紋がある。体長3.3~4.9 mm。〔105-8〕
ヒメアカホシテントウ
Chilocorus kuwanae SILVESTRI
- 近似種に赤紋の大きい *C. esakii* H. KAMIYA (九州南端部)、それに似た *C. takara* NAKANE et ARAKI (トカラ群島)、*C. amamensis* H. KAMIYA (奄美群島、沖縄)、*C. ishigakensis* H. KAMIYA (八重山群島)がある。

B群の検索表

(中・大形で背面に被毛なし)

1. 上翅は淡色で黒色部なし。…………… 2
- 1'. 上翅は黒色部がある。…………… 8
2. 上翅は無紋…………… 3
- 2'. 上翅は黄~黄褐色地に白色紋がある。…………… 4
3. 体長5 mm 以下。上翅は鮮黄色で、前背板は白く1対の黒紋がある。〔106-18〕
……………キイロテントウ *Illeis koebelei* TIMBERLAKE
- 3'. 体長5 mm 以上。上翅は橙黄~赤色。前背板は2対の黒点があることが多い。……………34
4. 上翅の白紋の形は三角形に近く、1-3-2-1に配列。体長7.2~8.5 mm。〔106-15〕
……………16 ホシテントウ *Neomysia nipponia* YUASA
- 4'. 上翅の白紋はほぼ円形。体長6.5 mm 以下。…………… 5
5. 上翅白紋は2-2-1。時々斑紋不鮮明。体長4.5~6.0 mm。〔106-9〕
……………シロトホシテントウ
Calvia decemguttata L.
- 5'. 上翅白紋は1-2-2-1…………… 6
- 5''. 上翅白紋は1-3-2-1。体長4.4~5.9 mm, ほぼ半球形。〔106-11〕
……………シロ 14 ホシテントウ
Anisocalvia quatuordecimguttata L.
- 5'''. 上翅白紋は1-2-3-1-1。やや扁平で、上翅の周縁は平圧される。体長6.0~6.4 mm。〔106-20〕
……………シロ 16 ホシテントウ
Halyzia sedecimguttata L.
6. 前背板の前縁はL形に凹む。上翅外方の白紋は周縁に達しない。…………… 7
- 6'. 前背板の前縁は弧状にわずかに凹む。上翅外方の白紋は周縁に達する。体長3.0~4.9 mm。〔106-19〕
……………シロホシテントウ
Vibidia duodecimguttata PODA
- (近似種に *V. nagayamai* があるがきわめて稀。)
7. 上翅の会合線にそった3白紋は弧状に並ぶ。体長4.0~5.1 mm。〔106-13〕
……………ムーアシロホシテントウ
Eocaria muii TIMBERLAKE
- (琉球には *E. parvinotata* MIYATAKE もいる。)
- 7'. 上翅の会合線にそった3白紋は直線状に並ぶ。体長4.9~5.2 mm。(稀)……………シロ 15 ホシテントウ
Eocaria quindecimguttata F.
8. 体長8 mm 以上。…………… 9
- 8'. 体長8 mm 以下(まれに8 mm を少し越えることもある)……………11
9. 上翅は黒と赤で複雑な亀甲状の斑紋を形成する。時々たま真黒。体長8~12 mm。〔105-14〕
……………カメノコテントウ
Aiolocaria hexaspilota HOPE
- 9'. 上翅は黄褐色地に黒斑がある。……………10
10. 上翅には13の黒斑があり、そのうち3個は会合部にまたがり、外方の2対は外縁に達する。体長10.5~13 mm。〔105-13〕
……………オオテントウ
Synonychia grandis THUNBERG
- 10'. 上翅には14の黒斑があり、いずれも会合部および外縁に触れない。体長11~12 mm。〔105-12〕
……………ハラグロオオテントウ
Callicaria superba MULSANT
11. 長円形で、体長は幅の1.5倍以上。……………12
- 11'. 半球~短卵形で、体長は幅の1.5倍以下。……………13
12. 上翅は黄色で19の黒点がある。体長3.8~4.1 mm。〔105-20〕
……………19 ホシテントウ
Anisosticta kobensis LEWIS
- 12'. 上翅は橙色で13の黒点があるが、しばしばその一部は消失する。体長5.6~6.2 mm。〔105-19〕
……………13 ホシテントウ
Hippodamia tredecimpunctata L.
13. 上翅の会合部は少なくとも一部分淡色部がある。……………14
- 13'. 上翅の会合部は全長にわたって黒色。……………20
14. 前背板は黒色で、前角の白色部は前背板の後縁に達しない。……………15
- 14'. 前背板は淡色地に黒色斑があるか、または黒色部の側方に後縁に達する淡色部がある。……………17
15. 上翅には5個の三角形に近い大型黒斑がある。体長6.0~6.5 mm。〔106-2〕(本州高地、北海道、稀)
……………チシマテントウ
Coccinella hasegawai MIYATAKE
- 15'. 上翅には7個以上のほぼ円形の黒斑紋がある。……………16
16. 上翅黒紋は7個。体長5.0~8.5 mm。〔106-4〕
……………ナナホシテントウ
Coccinella septempunctata L.
- (日本産は亜種 *brucki* MULSANT とすることが多い。)
- 16'. 上翅黒紋は9個。体長5.1~6.8 mm。〔106-5〕
……………ココノホシテントウ
Coccinella explanata MIYATAKE
- 16''. 上翅黒紋は11個。体長4.3~5.6 mm。〔106-6〕
……………アイステントウ *Coccinella ainu* LEWIS
17. 上翅は白色部に囲まれた眼状黒紋が10対ある(時々一部黒紋が消え、白紋だけが残ることがある)。体長6.7~8.5 mm。〔106-17〕
……………ウンモンテントウ
Anatis halonis LEWIS
- 17'. 上翅斑紋は眼状でない。……………18
18. 体長4.5 mm 以下。……………32
- 18'. 体長4.5 mm 以上。……………19
19. 上翅は赤色で、11個の大型黒紋が1 $\frac{1}{2}$ -2-1 $\frac{1}{2}$ - $\frac{1}{2}$ に並ぶ。前背板は橙色で1対の大型黒紋がある。体長4.8~5.8 mm。〔106-10〕
……………12 ホシテントウ
Anisocalvia duodecimmaculata yuasai NAKANE

- 19'. 上翅は黄～橙色で、比較的小さな黒点があり、基本的には2½—3—3—1であるが、しばしばその一部が消失して数が減少したり、融合したりする。前背板は黄白色に黒斑があるか、黒地に白斑がある。……………34
20. 上翅は会合部だけが黒色。……………21
- 20'. 上翅は会合部以外に黒色部がある。……………22
21. 前背板は上翅の地色と同様赤褐色で、基部にそって小三角紋1対と中央に小円紋1対の黒紋がある。体長3.7～4.7 mm。〔105-17〕(九州南部以南) ……………チャイロテントウ
- Micraspis discolor* FABRICIUS
- 21'. 前背板は黄白色で、中央部は広く黒色。体長3.0～4.6 mm。……………ヒメカメノコテントウ
- Propylea japonica* THUNBERG
22. 上翅は黒色地に3対の黄縦条がある。体長6.1～7.7 mm。〔106-16〕……………カサイテントウ
- Neomysia ramosa* FALDERMANN
- 22'. 上翅は淡色地に1対の黒縦条がある。体長3.5～3.7 mm。〔105-18〕……………クロスジテントウ
- Micraspis kiotoensis* NAKANE et ARAKI
- 22''. 上翅には会合部以外に黒縦条はない。……………23
23. 上翅には1対のほぼ円形の赤紋だけがある。……………24
- 23'. 上翅の淡色部は上記のようでない。……………26
24. 円形赤紋は上翅の中央よりやや前方にある。……………34
- 24'. 円形赤紋は上翅の中央よりやや後方にある。……………25
25. 円形赤紋は大形。前背板側方の白色部は後縁に達しない。体長5.1～7.1 mm。〔105-11〕(九州南端以南) ……………オオフタホシテントウ
- Lemnia biplagiata* SWARTZ
- 25'. 円形赤紋は小形。前背板側方の白色部は後縁に達する。体長5.6～6.7 mm。〔105-15〕(対馬) ……………カリブンテントウ
- Lemnia saucia calypso* MULSANT
26. 体長5 mm以上。時に小形の個体があるが、27の記載を参照せよ。……………27
- 26'. 体長5 mm以下。……………28
27. 上翅は黒地に赤色斑紋が通常2対ある。前方のものはほぼ四角形で、基縁および外縁に接近するが、細い黒色部を残す。しばしば縮小するが、その場合、前角近くに残る。後方の紋はほぼ円形で、しばしば縮小、消失する。前方の紋が横に2分され、合計3対の赤紋になることもある。琉球産では赤色部に黒紋を有するようになることがある。体長4.0～6.6 mm。〔105-16〕……………ダンダラテントウ
- Menochilus sexmaculatus* FABRICIUS
- 27'. 2対のほぼ円形の赤紋があるか、4対以上の赤紋がある。変化に富む。……………34
28. 上翅には2対の橙色斑が基部と翅端近くにあり、ともに側縁に達する。基部のものは大形で会合部を残して基部1/3を占める。体長3.0～3.8 mm。〔105-21〕……………マクガタテントウ *Coccinula crotchii* LEWIS
- 28'. 上翅に2対の淡色斑がある場合には側縁に達しない。……………29
29. 上翅には会合線にそって3～4対の淡色紋があり、その最前方の紋は横長。……………30
- 29'. 上記のようでない。上翅に会合線にそって3～4対の淡色紋がある場合にはその最前方の紋は縦長。……………32
30. 会合線にそって4対の淡色紋があり、それを囲む黒色部の一部は側縁に達する。体長2.9～4.3 mm。〔106-3〕……………14 ホシテントウ
- Coccinula quatuordecimpustulata* L.
- 30'. 会合線にそって3対の黄紋があり、黒色部は側縁に達しない。……………31
31. 会合線にそって黄紋はほぼ四角。黒色部の側縁に近い境界は角張って突出する。体長3.3～4.0 mm。〔106-7〕……………ウスキホシテントウ
- Synharmonia hirayamai* YUASA
- 31'. 会合線にそって黄紋は斜の卵形。黒色部の外方境界は波形。体長3.3～3.9 mm。〔106-8〕……………ムツキボシテントウ
- Protocaria scalaris* TIMBERLAKE
32. 前胸腹板に縦隆線がない。体形はやや扁平な卵形で上翅の側縁はほとんど平圧されない。上翅の色彩は変化に富むが、おもに次のような型がある。(1) 完全に黒色。(2) 黒色地に2対の淡色紋がある。(3) 淡色地に黒紋があり、基本的には1½—3—2½に列ぶが、それぞれ横に融合したり、消失したりする。黒紋の発達したものでは会合部も黒色であるが、黒紋が退化の傾向にあるものでは会合部は黒色でない。体長3.4～4.3 mm。(本州高地、北海道) ……………ルイステントウ
- Adalia conglomerata* L.
- 32'. 前胸腹板に縦隆線がある。体形は短卵形で上翅の側縁はせまくとも明らかに平圧される。上翅の色彩は変化に富むがおもに次のような形がある。(1) 黒色で周縁部は細く淡色。小楯板わきに小さな淡色部があることが多い。(2) 会合部のみ黒色。(3) 会合部の他に肩部に1対の小黒点があり、さらに後側方にも1対の小黒点が出現する。(4) 会合部黒色条は中央前で横にはり出して十字紋となり、肩部に1～2対、後側方に1対の黒紋があり、それぞれは、しばしば大形化し会合部十字紋と接続して、複雑な雲状斑となる。いずれの場合も、周縁部は常に細くとも淡色で、会合部は常に黒色。……………33
33. 腿節は常に淡色で黒色部なし。上翅色彩は32'の(1)～(4)のすべての型があるが、(4)の場合、肩部の紋は卵形か曲玉形で2分することは決してない。体長3.0～4.6 mm。〔106-14 a, b〕……………ヒメカメノコテントウ
- Propylea japonica* THUNBERG
- 33'. 腿節は多少とも黒色部がある。上翅色彩は常に32'の(4)型で、肩部の紋は2分するか、2個の長方形紋がずれて接合した形になる。しばしば黒色部がいちじるしく発達し、黒色部に数対の淡色紋を残したようになる。体長4.0～4.8 mm。〔106-14 c〕(本州中部以北の山地、北海道) ……………コカメノコテントウ
- Propylea quatuordecimpunctata* L.
34. 体形は卵形で、幅は長さの約3/4。複眼の内縁間隔は先端に向って明瞭に広がる。上翅は基本的には淡色地に黒紋が1½—3—3—1に配列されるが、しばしば融合したり消失したりする。前方から2段目の3紋はほ

とんど水平に並び、3段目の3紋は融合することが多く、最後方の1紋は通常翅端に達する。翅端近くの横ひだは全く存在しない。体長 6.7~7.0 mm。〔105-22〕(対馬, コシキ島, 琉球など)……………ヤホシテントウ

Harmonia octomaculata FABRICIUS

34'. 体形は短卵形で幅は長さの約 4/5。複眼間隔は先端に向ってわずかに広がる。上翅色彩は (1) 黒地に赤紋1対, (2) 黒地に赤紋2対, (3) 黒地に赤紋6対(2—1—2—1), または, (4) 淡色地に1 $\frac{1}{2}$ —3—3—1に配列する黒紋があり, その一部はしばしば消失し, 時には融合する。(4)の型の場合には, 2段目の3紋のうち真中の紋は内・外のものよりやや後方に位置し, 最後方の紋は通常翅端に達しない。翅端近くに横ひだがあることがある。体長 4.2~8.9 mm。〔106-1〕……………ナミテントウ

Harmonia axyridis PALLAS
またはクリサキテントウ

Hamonia yedoensis TAKIZAWA

クリサキテントウについて

従来ナミテントウと考えられていたものの中に異なった2種が存在することが明らかになり(日本昆虫学会第31回大会), その一つはナミテントウのシノニムとされてきた *Ptychanatis yedoensis* TAKIZAWA にほかならない。さらに古い適格名があるかもしれないが, 暫定的に *yedoensis* を用いクリサキテントウと呼んでおきたい。「クリサキ」は現在までのところ, 松樹上だけから見出されており, 「ナミ」のほうは各所に生息する。両者は幼虫で明瞭に区別されるが(次回幼虫編参照), 成虫での同定はきわめて困難で不可能に近い。しかし, 「クリサキ」には翅端横しわが全く出現しないので, これがあれば「ナミ」と考えてよい(ただし, 逆は成立しない)。

C群の検索表

(小形で背面に被毛なし。きわめてまばらな細毛があることもある。)

1. 上翅は黒一色で淡色紋がない。…………… 2
- 1'. 上翅に淡色部あり。…………… 7
2. 前背板は一樣に赤褐色。体長 1.7~1.9 mm。(琉球)……………クビアカツヤテントウ
Serangium ruficolle H. KAMIYA
- 2'. 前背板は大部分黒色。…………… 3
3. 体長 3.5 mm。前背板の前縁と側方は黄白色。(極稀)……………ババホシナシテントウ
Hyperaspis babai H. KAMIYA
- 3'. 体長 2.5 mm 以下。前背板は黒く, 前角がわずかに赤味を帯びることがある。…………… 4
4. 体長 1.5 mm 以下。中・後脛節は外縁が角ばる。…………… 5
- 4'. 体長 1.5 mm 以上。中・後脛節は単純。附節は4節。…………… 6
5. 前胸腹板は後縁の丸い三角形。附節は3節。体長 1.3~1.5 mm。(稀)……………シコクヒメツヤテントウ
Microserangium shikokense MIYATAKE
(琉球産は *M. okinawense* MIYAKAKE)

- 5'. 前胸腹板は前方の広い台形。附節は4節。体長 1.35 mm。(琉球, 稀)……………クロメツブテントウ
Nesolotis impunctata MIYATAKE
6. 頭部は黒~黒褐色。上翅はかなり強く点刻される。触角窩は縁取がない。体長 1.8~2.2 mm。……………ズグロツヤテントウ
Serangium punctum MIYATAKE
- 6'. 頭部は暗赤色。上翅はきわめて細かく点刻されるか, 平滑。触角窩は縁取がある。体長 1.6~2.0 mm。〔105-5〕……………クロツヤテントウ
Serangium japonicum CHAPIN
近似種に *S. ryukyuense* H. KAMIYA (沖縄, 八重山群島)がある。
7. 背面は一樣に黄褐色。体長 1.3~1.5 mm。(琉球)……………キヨロメツブテントウ
Nesolotis azumai SASAJI
- 7'. 背面は黒色部がある。…………… 8
8. 上翅は黒色地に独立した淡色小紋がある。…………… 9
- 8'. 上翅の色彩は上記のようでない。…………… 11
9. 上翅の淡色紋は1対。…………… 10
- 9'. 上翅の淡色紋は2対。体長 1.9 mm。(琉球, 極稀)……………モリモトメツブテントウ
Sticholotis morimotoi H. KAMIYA
- 9''. 上翅の淡色紋は3対。体長 2.7~3.0 mm。(極稀)……………ギョウトクテントウ
Hyperaspis gyotokui H. KAMIYA
10. 上翅の淡色紋は中央よりやや後方にある。体長 2.0~3.1 mm。〔104-25〕……………フタホシテントウ
Hyperaspis japonica CROUCH
- 10'. 上翅の淡色紋は翅端近くにある。体長 2.6~3.3 mm。〔104-24〕……………ツマフタホシテントウ
Hyperaspis asiatica LEWIS
11. 上翅は明瞭に区別される黄・赤・黒の3色から成り, はなはだ美しい。…………… 12
- 11'. 上翅は赤(または黄)と黒の2色から成る。赤色部の一部が黄味を帯びることがあるが明瞭でない。…………… 13
12. 前背板は赤色地に黒紋がある。上翅の黒紋は10個で1—2 $\frac{1}{2}$ —1 $\frac{1}{2}$ に配列。体長 2.5~3.0 mm。〔105-4〕(極稀)……………クロ12ホシテントウ
Plotina versicolor LEWIS
- 12'. 前背板は一樣に暗赤色。上翅は黒色の会合部・周縁部のほか, 縦に並んだ3対の黒紋がある。体長 3.0~3.5 mm。〔105-2〕(極稀)……………クロヘリメツブテントウ
Sticholotis hilleri WEISE
13. 背面は橙黄色で, 上翅に4対の小黒点があり, その1対は会合部で接する。体長 1.2 mm。(琉球, 極稀)……………ナナホシメツブテントウ
Nesolotis amabilis H. KAMIYA
- 13'. 背面は赤色地に大形黒斑があり, 会合部の大部分は黒い。…………… 14
14. 前背板は暗赤色で基部が一部黒い。上翅は会合線にそって強い点刻列がある。体長 2.7~3.0 mm。〔105-1〕……………メツブテントウ
Sticholotis substriata CROUCH
- 14'. 前背板の大部分は黒色。上翅に点刻列なし。…………… 15

15. 上翅会合部は全長にわたって黒色で、肩部に1対、側方に1対、会合部中央に1個、翅端部に1個合計6個の黒紋があり、互いにつながることがある。体長2.0~2.5 mm。〔105-13〕……………ムツボシテントウ

Sticholotis punctata CROUCH

15'. 上記に類似するが、上翅の基部 1/4 には黒色部を欠く。体長 1.7~1.9 mm。(極稀)……………

……………ヨツボシメツブテントウ

Sticholotis pictipennis LEWIS

D群の検索表

(大形で、背面に被毛あり)

1. 上翅には 14 対の黒紋がある。上翅の黒紋はしばしば一部が消失するが、6 対以下になるときはその黒紋は小さい。黒紋は融合することもある。背面被毛は白色に近い。…………… 2

1'. 上翅には 6 対以下の黒紋がある。…………… 3

2. 後腿節は完全に淡色で黒色部がない。各上翅の翅端は内側が角ばる。体長 5.3~6.8 mm。(本州中部の暖地、それ以西)〔104-3〕……………28ホシテントウ

Henosepilachna vigintioctopunctata FABRICIUS

2'. 後腿節は黒色部がある。各上翅の翅端は丸く終わる。体長 6.6~8.2 mm。〔104-2〕(九州、四国、中国地方の山地、中部以北)……………オオ 28 ホシテントウ群

Henosepilachna vigintioctomaculata-complex

3. 前背板に黒斑なし。上翅は橙褐色地に 6 対の比較的小きな黒紋が 2—2—2 に配列し、いずれも会合線に接しない。体長 7.5~8.0 mm。〔104-4〕(琉球)……………

…………… 12 マダラテントウ

Henosepilachna boisduvali MULSANT

3'. 前背板は黒色または淡色地に黒斑がある。上翅の黒紋は 5 対かまたは会合線にまたがる黒紋がある。… 4

4. 会合部に 2 個の黒紋がある。体長 5.4~7.5 mm。〔104-1〕……………トホシテントウ

Epilachna admirabilis CROUCH

4'. 会合部に 1 個の黒紋があるか、全くない。体長 4.5~5.6 mm。〔104-5〕(対馬) ……ツシママダラテントウ

Epilachna chinensis tsushimana NAKANE et ARAKI

オオニジュウヤホシテントウ群について

この中にはジャガイモの害虫として著名なオオニジュウヤホシテントウと、アザミ類を食べるコブニジュウヤホシテントウと呼ばれるものが含まれるが、後者は地理的変異に富み、オオと大変まぎらわしいものから、一見して判別できるものまであり、また、関東西部にはやっかいな一群が生息する。これらが 1 種なのか、いくつかに分けるべきものかは、議論的となり、いまだに結論が得られていない。また、別種あるいは別亜種とした場合の学名についても問題が残されている。

E群の検索表

(小形で背面に被毛あり)

1. 上翅はほとんど全体黒色。…………… 2

1'. 上翅は淡色部がある。…………… 5

2. 前背板は大部分黒色、前縁や側縁がせまく淡色の場合もある。……………E-a 群

2'. 前背板の地色は淡色。…………… 3

3. 前背板は完全に淡色。…………… 4

3'. 前背板は基部に黒斑がある。……………E-b 群

4. 体長約 1.0 mm で、背面からみると側縁は強くふくらみ、翅端はとがる。(琉球) ……フタイロチビテントウ

Sukunahikona bicolor H. KAMIYA

4'. 体長 1.5~1.7 mm で、側縁は中央部で平行に近く、翅端は丸く終わる。(琉球) ……クロバネヒメテントウ

Axinoscymnus nigripennis H. KAMIYA

5. 上翅は黒色地に翅端部だけが淡色で、独立した斑紋を持たない。……………E-b 群

5'. 上翅は地色が淡色か、黒色であれば独立した淡色紋があるか、少なくとも中央前に淡色部がある。…… 6

6. 背面は一様に淡色。…………… 7

6'. 背面は一様に淡色でない。……………12

7. 体長 3 mm 以上。…………… 8

7'. 体長 3 mm 以下。…………… 9

8. 体形は長円形で、幅は長さの 4/5。背面の色彩は暗赤色。体長 3.5~5.7 mm。〔104-7〕……………

……………アカイロテントウ *Rodolia concolor* LEWIS

8'. 体形は後すばみの卵形で、幅は体長の 7/8。背面の色彩は橙色。体長 3.0~3.9 mm。〔104-10〕(琉球) ……

……………ダイダイテントウ *Rodolia pumila* WEISE

9. 体長約 1 mm で、短卵形、幅は長さの 3/4。背面には細長毛と短毛が生える。〔105-6〕(稀)……………

……………ムクゲチビテントウ

Sukunahikona japonica H. KAMIYA

9'. 体長 1 mm 以上で長卵形、幅は長さの 2/3 以下。……………10

10. 体長 2 mm 以下で黄褐色。腿節線は完全。……11

10'. 体長 2.2~2.7 mm。背面は赤褐~褐色。腿節線は不完全。……………トビロヒメテントウ

Scymnus paganus LEWIS

11. 体長 1.1~1.5 mm。背面は淡黄褐色。(九州、極稀) ……キイロヒメテントウ *Scymnus syoitii* SASAJI

11'. 体長 1.8 mm。背面は赤褐色。(トカラ群島) ……

……………タカラヒメテントウ

Scymnus takaraensis NAKANE et ARAKI

12. 上翅は黒色地に直径が上翅長の半分以下の円~長円形の淡色紋が 1 対以上ある。……………13

12'. 上翅の地色は淡色か、もし黒色の場合は上記のようでない。……………22

13. 上翅の淡色紋は 1 対。……………14

13'. 上翅の淡色紋は 2 対で縦に並ぶ。……………20

14. 前背板と翅端は淡色。体長 1.9~2.5 mm。〔104-14〕……………ハレヤヒメテントウ

Pseudoscymnus hareja WEISE

14'. 前背面はほとんど黒色(まれに淡色地に黒斑の場合もある)。翅端は淡色でない。……………16

15. 体は半球形に近い。……………16

15'. 体は卵~長方形に近い。……………17

16. 中・後腿節は黒色。前胸腹板の縦隆線は前縁に達して左右丸くつながる。体長 1.5~2.4 mm。(琉球)

- [104-22].....ヒメフタモンクロテントウ
Cryptogonus horishanus OHTA
- 16'. 中・後腿節は褐色。前胸腹板の縦隆線は前縁から離れて丸くつながる。体長 2.1~2.8 mm。[104-21]フタモンクロテントウ
Cryptogonus orbiculus GYLLENHAL
17. 上翅淡色紋は淡黄色で四角形に近く、体は扁平で細長い。長さは幅の 1.8 倍。体長 1.7~2.2 mm。(琉球)リュウキエウナガヒメテントウ
Nephus ryukyensis SASAJI
- 17'. 上翅淡色紋は赤色で、四角でない。.....18
18. 赤色紋は上翅の中央よりやや後方にあり、円~短卵形。.....19
- 18'. 赤紋は上翅の後側方にあり、細長く小さい。体長 1.4~1.6 mm。.....オトヒメテントウ
Scymnus otohime H. KAMIYA
19. 九州以北に産する。赤紋の前縁は上翅の中央より後にある。体長 1.7~2.3 mm。[104-18]アトホシヒメテントウ
Nephus phosphorus LEWIS
- 19'. 琉球産。赤紋の前縁は上翅の中央を越す。体長 1.9 mm。.....リュウグウヒメテントウ
Nephus ryuguus H. KAMIYA
20. 細長く、体長は幅の 1.5 倍以上。赤紋は小さく点状。体長 1.9~2.1 mm。(極稀)ヨツモンヒメテントウ
Nephus yotsumon H. KAMIYA
- 20'. 短卵形で、体長は幅の 1.5 倍以下。赤紋は比較的大きく斜の卵形。.....21
21. 腿節線は完全。体長 1.7 mm。(極稀)サッポロヒメテントウ
Scymnus sapporensis OHTA
- 21'. 腿節線は不完全。体長 1.7~2.3 mm。.....ハマベヒメテントウ
Scymnus marinus H. KAMIYA
22. 背面は赤(橙)・黄・黒の 3 色から成る。.....23
- 22'. 背面は 2 色から成る。.....24
23. 前背板は大部分黒色。上翅は暗赤色で、各翅の中央が不明瞭に黄色く、会合部、周縁部、2 対の円紋は黒。体形は半球形。体長 2.9~3.7 mm。[105-7]ヨツボシテントウ
Phymatosternus lewisii CROTCH
- 23'. 前背板は黄色で黒点がある。上翅は明瞭に区別される黄と赤の配色の上に、3 対の黒紋があり美しい。体形は四角っぽい短卵形。体長 4.0~4.6 mm。[104-10]アマダテントウ *Amida tricolor* HAROLD
- 23''. 前背板は橙褐色。上翅は黒地に 2 対の黄紋があり、その前方のは横 Y 字形。体は小さく、やや扁平。体長 1.9~2.6 mm。(琉球)オキナワフタスジヒメテントウ
Horniolus okinawensis CHŪJŌ et MIYATAKE
24. 前背板、上翅基部および翅端部は淡橙色で、上翅の地色は黒~黒褐色。体長 1.6~1.8 mm。(琉球)ネアカヒメテントウ
Axinoscymnus beneficus H. KAMIYA
- 24'. 上翅の地色が黒い場合は基部は完全に淡色でないか、中央部に淡色部がある。.....25
25. 上翅は淡色の地に独立した黒紋が 4~5 個ある。(そのうちの一部は互いに融合することがある).....26
- 25'. 上翅の地色が淡色の場合は上記のようでない。...28
26. 地色は淡黄褐色で小形。体長 1.6~2.3 mm。(琉球)イツホシヒメテントウ *Pseudoscymnus quinquepunctata okinawanus* H. KAMIYA
- 26'. 地色は暗赤色で、2.5 mm 以上。.....27
27. 体形は半球形。体長 2.9~3.7 mm。[105-7]ヨツボシテントウ
Phymatosternus lewisii CROTCH
- 27'. 体はやや扁平。体長 3.3~3.8 mm。[104-9]ベダリアテントウ
Rodolia cardinalis MULSANT
28. 上翅は黒色で周縁部が赤い。体長 3.5 mm 以上。.....29
- 28'. 上翅の地色が黒い場合は周縁は赤くない。.....30
29. 上翅の周縁部だけでなく、会合部、基部も赤色。体長 3.9~5.4 mm。[104-8]ベニヘリテントウ
Rodolia limbata MOTSCHULSKY
- 29'. 上翅は周縁部だけがきわめて細く赤い。体長 4.0~5.6 mm。[104-6]アカヘリテントウ
Rodolia rufocincta LEWIS
30. 上翅は黒色地に 2 対の横長の淡色紋がある。.....31
- 30'. 上翅の地色が黒い場合は上記のようでない。.....32
31. 上翅の淡色紋は赤く波形。前背板は通常黒地に 2~4 個の小赤紋がある。体形は短卵形。体長 2.5~3.2 mm。[104-12] (稀)フタスジヒメテントウ
Horniolus fortunatus LEWIS
- 31'. 上翅淡色紋は赤~黄でほぼ直線の帯状。前背板は黒く赤紋を欠く。体形は長小判形。.....キエウシエウフタスジヒメテントウ
Horniolus kyushuensis MIYATAKE (体長 2.6 mm, 九州産, 極稀), アマシフタスジヒメテントウ *Horniolus amamensis* MIYATAKE (体長 2.2~2.4 mm, 奄美大島産, 極稀)。
32. 上翅は淡色地に基部から会合線に沿って後方に伸長する黒色部(または暗色部)があるか、または、黒色地の各翅に縦長の淡色部がある。.....E-c 群
- 32'. 会合部は黒(暗)色でない。前背板は常に淡色。.....33
33. 上翅は黒色で、中央部の大形円紋と翅端部が淡色。体長 2.2 mm。(極稀)セボシヒメテントウ
Pseudoscymnus sebosii OHTA
- 33'. 上翅は淡黄色で、肩部から周縁部によって黒色(暗色)部が伸び、上翅後方で合致する。小楯板わきから中央部にかけて広く淡色部を残す。体長 1.6~1.7 mm。(琉球)ライヒメテントウ
Axinoscymnus rai H. KAMIYA

E-a 群の検索表

(小形で被毛があり、全体黒色)

1. 頭楯は眼下で横に強くはり出す。体長 1.5~2.1

mm.クロテントウ *Telsimia nigra* WEISE
(琉球産は *Telsimia chujoii* MIYATAKE)

- 1'. 頭楯は眼下に強くはり出さない。..... 2
2. 前胸腹板前縁は弧状に前方へはり出す。..... 3
2'. 前胸腹板前縁は直線状が軽く凹む。..... 5
3. 短卵形で長さは幅の約1.3倍。上翅点刻は均一で細かい。体長 1.2~1.5 mm. ...キアシクロヒメテントウ

Stethorus japonicus H. KAMIYA

(琉球産は *S. aptus tsutsuii* NAKANE et ARAKI)

- 3'. 卵~長卵形、長さは幅の1.4~1.5倍。上翅点刻は不均一であらう。..... 4
4. 卵形で長さは幅の1.4倍。♂の腹部末端節の後縁は中央で凹む。体長 1.3~1.5 mm. (稀).....
.....エグリクロヒメテントウ

Stethorus emarginatus MIYATAKE

- 4'. 長卵形で長さは幅の1.5倍。♂の腹部末端節の後縁は平坦。体長 1.4~1.65 mm.
.....ナガクロヒメテントウ

Stethorus yezeoensis MIYATAKE

5. 腿節線は不完全。..... 6
5'. 腿節線は完全。前胸腹板には1対の縦隆線がある。..... 8
6. 前胸腹板は、隆起線に囲まれた四角形の部分のみが基節間に露出する。体形はかなり幅広い。..... 7
6'. 前胸腹板は明瞭な縦隆線なく、T字形に露出。長卵形。体長 1.6 mm. (いずれも極稀).....
.....ムモンヒメテントウ *Nephus kompirasanus*

H. KAMIYA, カイヒメテントウ *N. kaiensis*
H. KAMIYA

7. 上翅の被毛の配列は強く曲ったS字形。体長 1.7~2.2 mm. (琉球).....リュウキュウヒメテントウ

Pseudoscymnus kurohime MIYATAKE

- 7'. 上翅の被毛の配列は強く曲らない。体長 1.5~1.8 mm. (いずれも稀).....ルイスヒメテントウ

Pseudoscymnus lewisi H. KAMIYA, ナガサキヒメテントウ *P. nagasakiensis* H. KAMIYA

8. 体長 1.5~1.7 mm. 前胸腹板の縦隆線の間隔はかなり幅広い。(極稀).....アラキヒメテントウ

Scymnus puellaris M. ARAKI

- 8'. 体長 1.8 mm 以上。前胸腹板の縦隆線の間隔は小さい。..... 9

9. 大形で背面は完全に黒色。上翅の被毛はこまかく、複雑な波形の組み合わせに配列する。体長 2.8~3.5 mm.オニヒメテントウ

Scymnus giganteus H. KAMIYA

- 9'. 背面はほとんど黒色であるが、上翅の後縁と、前背面前縁はきわめて細く褐色にふち取られる。上翅被毛の配列はさほど複雑でない。..... 10

10. 体は小判形に近く、上翅被毛はゆるやかなS字形。体長 2.8~3.0 mm.タカバヤシヒメテントウ

Scymnus takabayashii OHTA

- 10'. 体は短卵形で、上翅被毛は強く曲ったS字形。体長 1.8~2.6 mm.カワムラヒメテントウ

Scymnus kawamurai OHTA

E-b群の検索表

(小形で被毛があり、上翅は翅端部以外に顕著な淡色部がない)

1. 前背板は完全に淡色。..... 2
1'. 前背板は多少とも黒色部がある。..... 8
2. 2 mm 以上。腿節線は不完全。体長 2.3~2.7 mm.クビアカヒメテントウ

Pseudoscymnus sylvaticus LEWIS

- 2'. 2 mm 以下。腿節線は完全。..... 3
3. 翅端の淡色部は前側方に向って広がり、上翅長の2/5に達する。淡色部と黒色部の境は強く弧状で、黒色部は会合線にそって後方にのびる。体長 1.3~1.7 mm. (八重山群島、稀).....ハトマヒメテントウ

Scymnus hatomensis H. KAMIYA

- 3'. 翅端の淡色部は1/3以下か、または黒色部との境は平坦。..... 4

4. 体は短卵形で、長さとの比は1.50以下。頭楯の前縁は明瞭に弧状。..... 5

- 4'. 体は長卵形で、長さとの比は1.50以上。頭楯の前縁は直線状か、わずかに弧状。..... 6

5. 翅端の淡色部は上翅長の約1/3で、その黒色部との境は直線状で不明瞭に境される。体長 1.8~2.2 mm.パイゼヒメテントウ

Scymnus contemptus WEISE

- 5'. 翅端の淡色部は1/4以下で、その黒色部との境は弧状に前方にはり出し、明瞭に境される。体長 1.5~1.8 mm.オオタヒメテントウ *Scymnus rectus* OHTA

6. 内地産。..... 7
6'. 琉球産。体長 1.7~2.0 mm.ミヤタケヒメテントウ

Scymnus miyatakei H. KAMIYA

7. ♂の腹部第5節の後縁はほとんど平坦。前頭の複眼内縁は前方においても明瞭に弧状。次種に比べて、体の側縁はより強くふくらむ。体長 1.8~2.2 mm.ニセツマアカヒメテントウ

Scymnus rectoides SASAJI

7. ♂の腹部第5節の後縁は明瞭に弧状。前頭の複眼内縁は前方においてほとんど平行。体長 1.7~2.0 mm.ツマアカヒメテントウ

Scymnus dorcatomoides WEISE

8. 前背板は橙黄色地の基部に黒斑がある。..... 9
8'. 前背板は黒色で、場合によっては前縁・側方に淡色部があるがせまくて不明瞭。..... 12

9. 上翅端には明瞭な淡色部がなく、あってもきわめて細い。体は細長く、長さとの比は1.6~1.7。腿節線に囲まれた部分は均一に点刻される。体長 1.8~2.5 mm.バンバヒメテントウ *Scymnus babai* SASAJI

- 9'. 上翅端には明瞭な淡色部がある。腿節線に囲まれた部分の点刻は不均一。..... 10

10. 上翅の被毛はわずかに曲ったS字形。体長 2.4~3.1 mm.クロヒメテントウ

Scymnus japonicus WEISE

- 10'. 上翅の被毛は強く曲ったS字形。..... 11
11. 上翅中央部に会合線に沿った強い点刻列はない。

体長 2.5 mm。(本州, 四国, 極稀)……………
……………オオサカヒメテントウ

Scymnus osakaensis M. ARAKI

11'. 上翅中央部に会合線に沿った強い点刻列がある。
体長 1.7~2.2 mm。(琉球)……………タイワンヒメテントウ

Scymnus sodalis WEISE

12. 前胸腹板は、ほぼ四角形に露出し、前基節窩前方の部分は非常にせまい。腿節線は不完全。……………13

12'. 前胸腹板はT字形に露出する。……………14

13. 大形で最大幅は中央より前方にある。上翅被毛の配列は後方 1/3 あたりに急に屈曲するので見る方向によっては白帯があるように見える。体長 2.7~3.0 mm。……………オオヒメテントウ

Pseudoscymnus pilicrepus LEWIS

13'. 中形で、体の側縁はゆるやかな弧状。上翅被毛の配列は普通のS字形。体長 2.1~2.3 mm。(極稀)……………ナカネヒメテントウ

Pseudoscymnus nakanei M. ARAKI

14. 前胸腹板には顕著な縦隆線なし。長卵形で小形。前背板の前縁は暗赤色。上翅の後方 2/5 は赤味を帯びるがその境界は不明瞭。(北海道, 稀)……………アイヌヒメテントウ

Scymnus pirikamenoko H. KAMIYA

14'. 前胸腹板には1対の縦隆線がある。……………15

15. 腿節線は不完全。体長 2.1~2.5 mm。(対馬)……………ツシマクロヒメテントウ

Scymnus tsushimaensis SASAJI

15'. 腿節線は完全。……………16

16. 腿節線に囲まれた部分は均一に密に点刻される。上翅後方はぼんやりと褐色がかかることが多い。体長 1.9~2.2 mm。(稀)……………オオタナガヒメテントウ

Scymnus ohtai SASAJI

16'. 腿節線に囲まれた部分の点刻は、前方ほど密。……………17

17. 上翅被毛の配列はほとんど湾曲しないか、きわめてゆるやかなS字形。……………18

17'. 上翅被毛の配列は明瞭に湾曲したS字形。……………19

18. 体は小さく、長卵形。体長 1.6~2.1 mm。(稀)……………ナガヒメテントウ *Scymnus ruficeps* OHTA

18'. 体は大きく小判形。体長 2.8~3.0 mm。……………タカバヤシヒメテントウ

Scymnus takabayashii OHTA

19. 翅端の淡色部の前境界は各翅において弧状に前方に突出する。上翅はきわめて密に点刻され、上翅被毛も密。体長 1.9~2.8 mm。……………コクロヒメテントウ

Scymnus hiliaris MOTSCHULSKY

(本種の学名は近く変更される予定)

19'. 翅端淡色部の前縁は周縁に沿って後方に湾曲。上翅点刻および被毛は比較的疎。……………20

20. 九州以北産。前背板は黒く、前側方が淡色のことが多い。体長 1.8~2.6 mm。……………カワムラヒメテントウ

Scymnus kawamurai OHTA

20'. 琉球産。前背板の赤色部は前種より通常広い。体長 1.7~2.4 mm。……………タイワンヒメテントウ

Scymnus sodalis WEISE

E-c 群の検索表

(小形で被毛があり、上翅の会合部に黒条があるか、各翅に淡色条がある)

1. 腿節線は不完全。……………2

1'. 腿節線は完全。……………6

2. 体は細く、小判形でやや扁平、長さは幅の1.6倍以上。前胸腹板はT字形で縦隆線がない。……………3

2'. 体は卵形で、長さは幅の1.6倍以下。背面は扁平でない。前胸腹板は縦隆線がある。……………4

3. 前背板は完全に黄褐色で黒色部がない。上翅は淡黄褐色で、基部から会合線にかけて黒(暗)色になる。体長 1.35~1.75 mm。(琉球)……………ニセセスジヒメテントウ

Nephus tagiapatus H. KAMIYA

3'. 前背板は黄褐色地の基部に黒斑があるか、大部分が黒色。上翅は通常黒色で、1対の大形淡色紋があり、翅端部も不明瞭に淡色。時に、上翅後方が淡色化することがある。体長 1.45~1.85 mm。……………セスジヒメテントウ

Nephus patagiatus LEWIS

4. 前背板は完全に淡色。前胸腹板は隆起線に囲まれた四角形の部分が露出。体長 1.9~2.5 mm。……………ハレヤヒメテントウ

Pseudoscymnus hareja WEISE

4'. 前背板は少なくとも一部分黒色。前胸腹板の露出部はT字形で1対の縦隆線がある。……………5

5. 上翅は黄褐色で、後方へ向って次第に細くなる黒色の会合部がある。側縁部も細く黒いことが多い。前背板は淡色地に黒色の基斑がある。体長 2.2 mm。(琉球)……………クロスジヒメテントウ

Scymnus nigrosuturalis H. KAMIYA

5'. 上翅は黒色地に1対の縦長の赤色斑がある。前背板はほとんど黒色。体長 1.7 mm。(トカラ群島)……………ミヤモトヒメテントウ

Scymnus miyamotoi NAKANE et ARAKI

6. 腿節線に囲まれた部分は均一にかつ密に点刻される。……………7

6'. 腿節線に囲まれた部分の点刻は不均一で、線に沿った部分ではまばらか平滑。……………10

7. 体は細長い小判形で、やや扁平。長さは幅の1.65倍以上。前背板の側縁は基部においてほぼ平行。上翅は大変密に点刻される。体長 2.3~3.0 mm。(稀)……………ヤマトヒメテントウ

Scymnus yamato H. KAMIYA

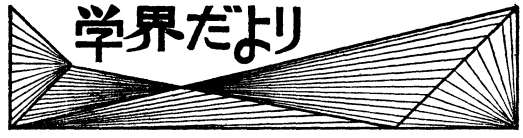
7'. 体は卵形で長さは幅の1.65倍以下。前背板の側縁は弧状をなして前方に狭まる。上翅の点刻はいちじるしく密でない。体長 2.3 mm 以下。……………8

8. 上翅の被毛は比較的長く細く、黄色味を帯び、その配列はゆるやかなS字形。体下面の色彩は通常褐色で、腿節の色とほぼ同様。体長 1.9~2.3 mm。……………カバイロヒメテントウ

Scymnus fuscatus BOHEMAN

8'. 上翅被毛は比較的短く、ほとんど白色で、その配列は強く曲ったS字形。体下面は通常黒く、肢は褐~黄

- 褐色。…………… 9
9. 上翅は黒地に通常明瞭な赤色の縦条がある。体長 1.5~2.3 mm。……………アカスジヒメテントウ
Scymnus hoffmanni WEISE
- 9'. 上翅は黒く、翅端から前方にのびる暗褐色部があるが、その境界は不明瞭。体長 1.9~2.2 mm。(稀) ……オオタナガヒメテントウ
Scymnus ohtai SASAJI
10. 前背板は完全に淡色。上翅は橙黄~淡黄色で、基部、会合部の前方 1/2 ほど、側縁部が黒~暗色であるが、しばしば暗色部は不明瞭なことがある。体長 1.4~1.7 mm。(八重山群島) ……キモトヒメテントウ
Scymnus kimotoi H. KAMIYA
- 10'. 前背板は少なくとも半分以上黒色。…………… 11
11. 長卵形で上翅は黒色地に明瞭な 1 対の縦長大形の赤斑がある。…………… 12
- 11'. 短卵形で、背面は強くふくらみ、上翅は黒色地の各翅に、翅端部から基方に向って延びる暗赤~暗褐色部があるが、その境界はきわめて不明瞭。…………… 13
12. 背面はあらく点刻される。前背板はほとんど黒色。体長 1.9 mm。(対馬, 極稀)……………ツシマアカスジヒメテントウ
Scymnus taishuensis SASAJI
- 12'. 背面はこまかく点刻される。前背板は暗褐色で、基部に黒斑がある。体長 1.5~1.9 mm。(稀)……………カグヤヒメテントウ
Scymnus kaguyahime H. KAMIYA
13. 前背板の前縁は前方に弧状にはり出し、頭部を覆う。背面はかなり強くふくらむが次種ほどいちじるしくない。下唇ひげ末端節はいちじるしく小さい。体長 1.3 mm。(極稀)……………トサヒメテントウ
Keiscymnus tosaensis SASAJI
- 13'. 前背板の前縁は普通。背面はいちじるしくふくらむ。下唇ひげは正常。体長 1.6~1.7 mm。(極稀)……………セダカヒメテントウ
Scymnus vancouveris SASAJI



○第6回農業科学シンポジウムのテーマ、プログラムなどきまる

標記シンポジウムについては6月号 42 ページに開催のお知らせをしましたが、その後テーマとプログラムが下記のとおりきまりました。

テーマ：農業の安全性と new approaches

プログラム：

講演の題目と演者：

- (1) The 3rd International Symposium on Chemical and Toxicological Aspects of Environ-

mental Quality の概要

理研 福永一夫氏

- (2) "Mrak Report" and technology of assessment for safe use of chemicals

カリフォルニア大 E. M. MRAC 氏

- (3) Biological effects of pesticidal metabolites and contaminants, with particular reference to new development in the U. S.

ウィスコンシン大 F. MATSUMURA 氏

- (4) Chemicals controlling insect behavior

米国農務省研究所 M. BEROZA 氏

- (5) 植物の病害抵抗性におけるファイトアレキシンの役割

農技研 酒井隆太郎氏

- (6) 農業の剤型と安全性 全農 上島俊治氏

なお、参加費は当日の講演要旨代を含め 500 円

次号予告

次 10 月号は「農業残留」の特集を行ないます。予定されている原稿は下記のとおりです。

- 1 農業残留対策とその現状 佐々木 亨
- 2 農業の作物残留と使用基準 中村 広明
- 3 有機塩素殺虫剤の土壌中における残留と消長 川原 哲城
- 4 除草剤の土壌中における残留と消長 鍛塚 昭三
- 5 土壌中における農業の微生物分解 鈴木 達彦
- 6 各県における農業残留対策の実例

- (1) 福島県 堀 克也

- (2) 新潟県 石本 茂徳
- (3) 徳島県 永井 洋三
- (4) 高知県 小山 正一
- (5) 熊本県 末永 弘
- 7 農業残留調査の問題点 後藤 真康
- 8 農業の毒性試験の現状と問題点 白須 泰彦
- 9 「農業残留の緊急対策に関する調査研究」のとりまとめを終えて 田中 敏夫

定期購読者以外の申込みは至急前金で本会へ
1 部 200 円 送料 16 円